

令和4年12月13日
東京都医師会 定例記者会見

高齢者施設等担当の立場から

東京都医師会（自宅療養・高齢者施設担当）

副会長 平川 博之

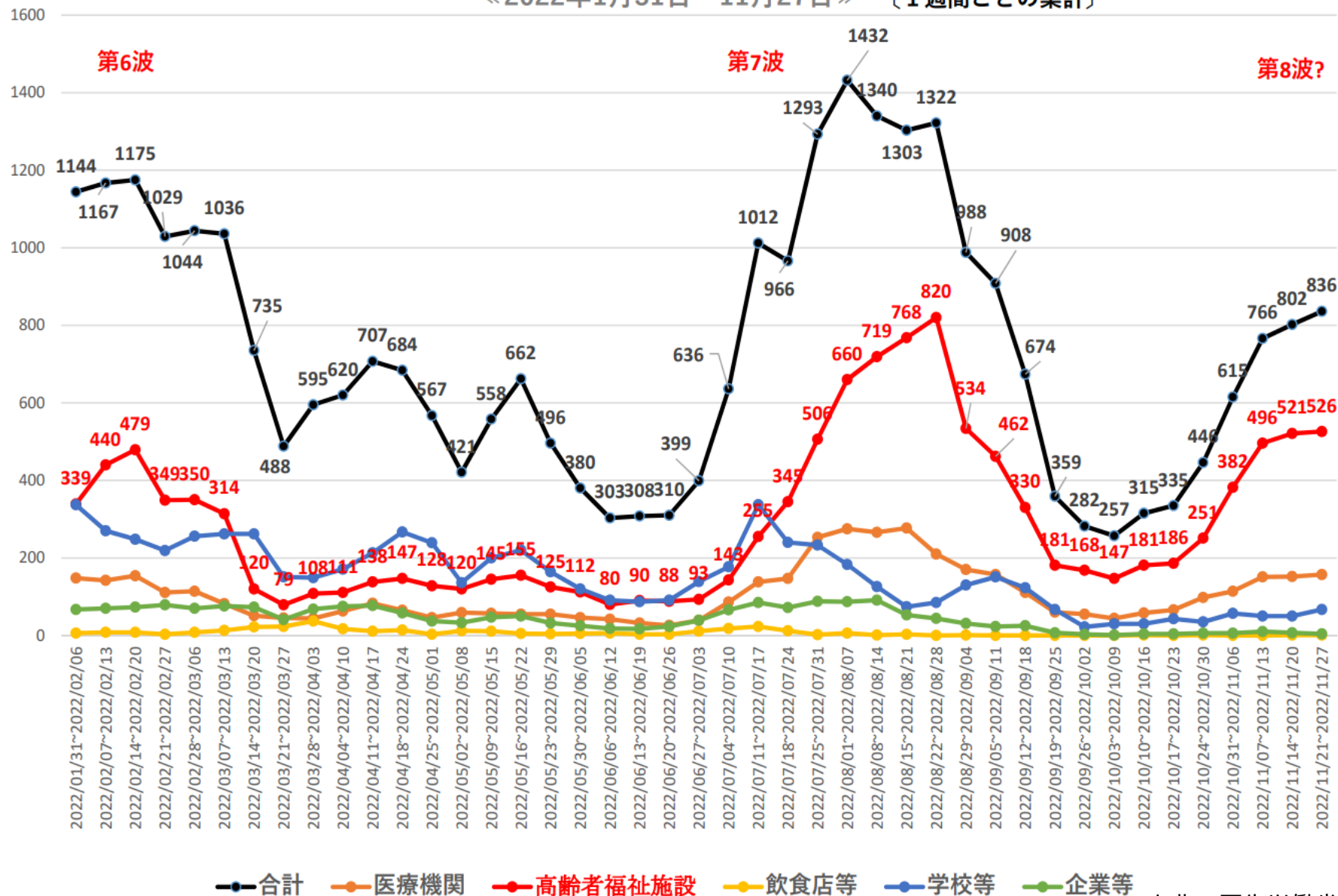
理 事 西田 伸一

理 事 土谷 明男

理 事 佐々木 聡

クラスター（5人以上）発生状況

《2022年1月31日～11月27日》〔1週間ごとの集計〕



出典：厚生労働省

新型コロナウイルス感染症 感染状況報告集計 速報値 12月7日時点

集計期間：令和4年2月1日～11月30日（1例目の発生が2月～11月の施設を集計）

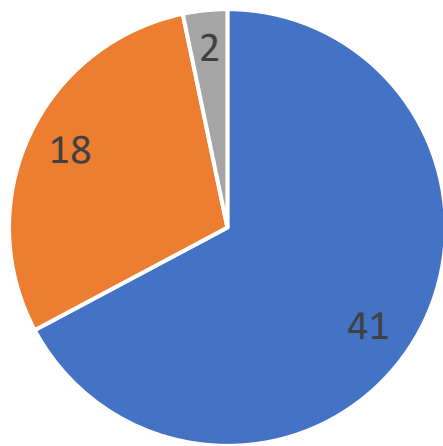
回答方法：Googleフォーム

	発生施設数	発生施設数		入所者・通所者			従事者
		クラスター発生施設		陽性者	死亡者	死亡率 (陽性者/死亡者)	陽性者
		5名以上	20名以上				
2月	328施設	170施設 (51.8%)	90施設 (27.4%)	3,729名	119名	3.2%	1,508名
3月	212施設	74施設 (34.9%)	31施設 (14.6%)	1,336名	42名	3.1%	654名
4月	232施設	93施設 (40.1%)	38施設 (16.4%)	1,507名	18名	1.1%	680名
5月	239施設	91施設 (38.1%)	33施設 (13.8%)	1,336名	18名	1.3%	714名
6月	108施設	58施設 (53.7%)	25施設 (23.1%)	992名	11名	1.1%	510名
7月	506施設	382施設 (75.5%)	231施設 (45.7%)	8,497名	221名	2.6%	4,994名
8月	591施設	459施設 (77.6%)	256施設 (43.3%)	9,852名	237名	2.4%	4,906名
9月	196施設	138施設 (70.4%)	66施設 (33.6%)	2,322名	25名	1.1%	1,106名
10月	115施設	77施設 (67.0%)	41施設 (35.7%)	1,672名	32名	1.9%	777名
11月	134施設	97施設 (72.4%)	46施設 (34.3%)	1,612名	16名	1.0%	888名

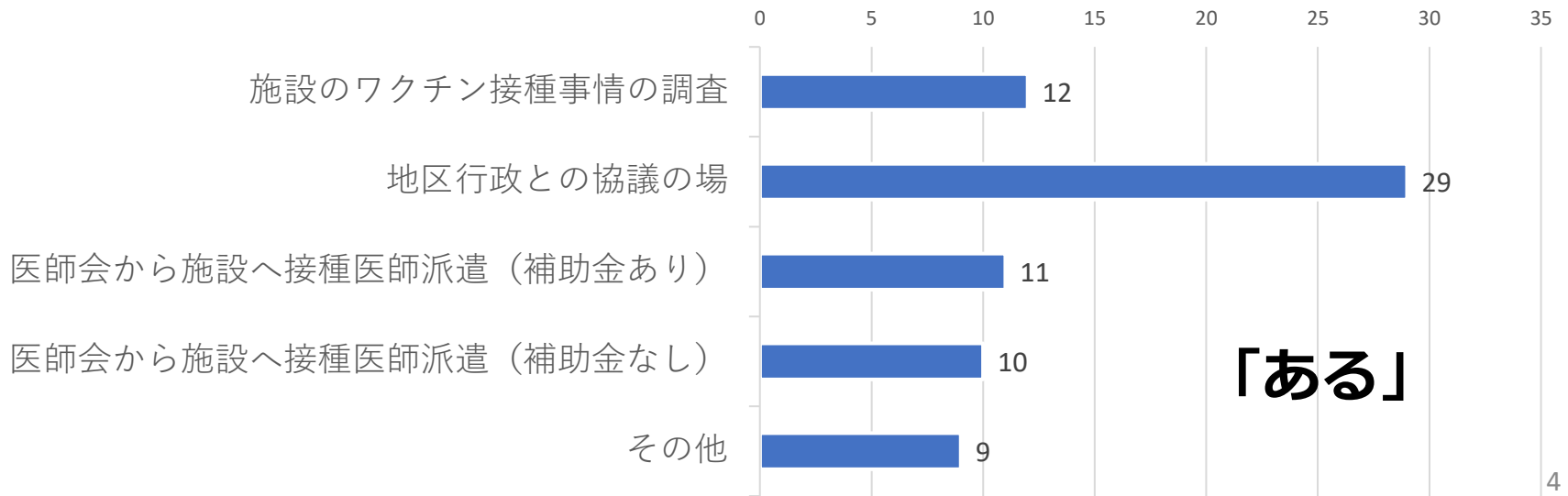
※5名以上のクラスター発生施設には、20名以上の発生施設も含む

高齢者・障害者入所施設での新型コロナウイルスワクチン接種体制緊急調査

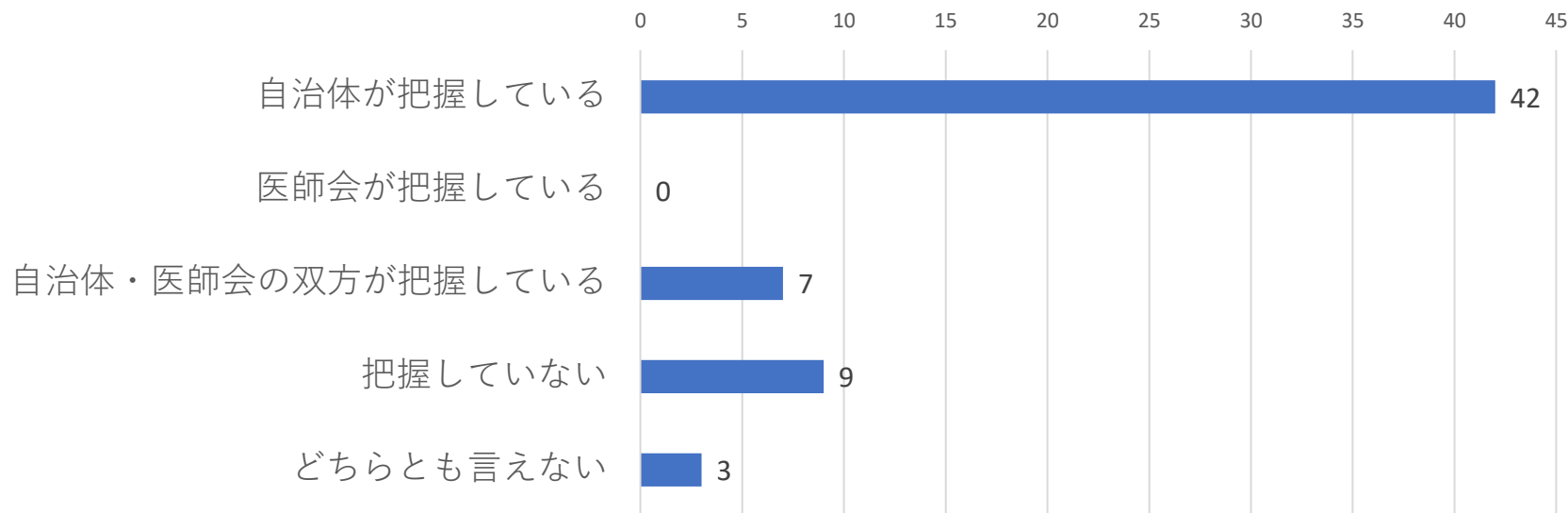
Q.施設ワクチン接種事業について行政と医師会の協力体制の有無



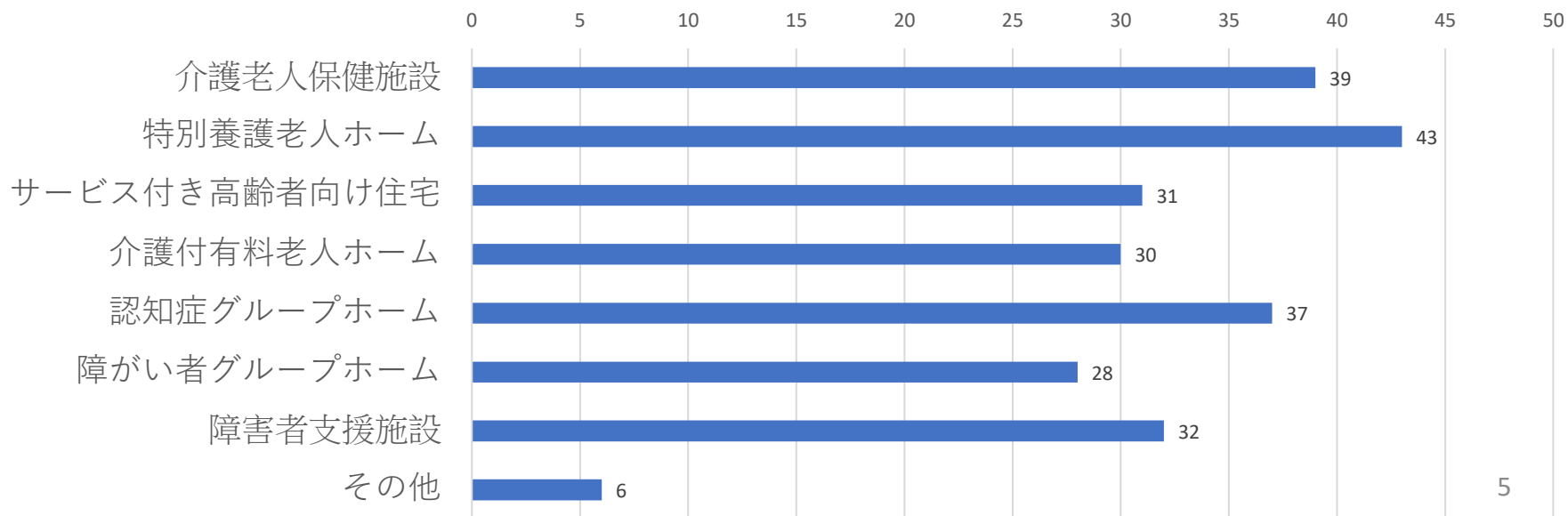
■ ある ■ ない ■ どちらとも言えない



施設のワクチン接種状況の把握



把握している施設類型



自由記載等から

- 区内の特養配置医師の大半は医師会の推薦医師。特養と嘱託医の連絡、協議会は定期的に実施されているが、医師会と特養との定期的協議会は実施していない。但し、COVID-19の施設内感染が発生後、行政、施設、医師会で連絡、協議会を立ち上げた。
 - 区が介護老人保健施設、特養などは手上げ式でワクチン接種を巡回して接種している。
 - ワクチンは医師会より必要十分量が提供されている。施設側の準備が整えば前倒し接種可能。障害は接種券で家族の元に届く、区外に住民票がある等で揃わない。
 - 有料老人ホームにおいては区外医療機関が参入しているところも多く、実態把握は難しい。区外の医療機関が入っているところでクラスターが発生すると当区保健所との情報のやり取りも手間がかかってしまうことがある。
- ⇒新型コロナウイルス感染拡大により自治体・医師会・高齢者福祉施設等との連携が深まった。

結 語

○**高齢者施設のワクチン接種**：概ね対応できている。

○**高齢者施設クラスター**：発生制御は極めて困難。

施設の構造上の問題/脆弱な医療体制/ケアの多くが身体接触を伴う/
利用者に感染対策を求めるのが難しい

○**施設内療養**：医療供給体制ひっ迫時は常態化。

医療資源の効率的配分のためには入所者の感染・重症化予測が必要。

○**分類見直しの議論の中（ウィズコロナ期）**：

- ・重症化率・死亡率は高齢者とその他で大差。現状の高齢者感染対策を緩めるわけにはいかない。引き続き検査・治療、ワクチン接種等の公費負担が必要。
- ・個々の感染リスクが把握できれば、施設行事や面会等の制限解除の判断材料となる。

⇒抗体検査の普及、実証研究が望まれる。